

2013 年 2 月 3 日(日)

午後 1 時 30 分～5 時 30 分

会場：一橋大学・東キャンパス
第 3 研究館 3 階 研究会議室
参加無料

◆プレ・ワークショップ

映画「キクとイサム」鑑賞(10:30-12:30)

◆報告

野入直美 Naomi NOIRI

ジョハンナ・ズルエタ Johanna O. ZULUETA

田口ローレンス吉孝 Yoshitaka Lawrence

TAGUCHI

フレデリック・ルスタン Frédéric ROUSTAN

李洪章 Hong Jang LEE

◆コメント

伊藤るり Ruri ITO

小ヶ谷千穂 Chiho OGAYA

◆司会

呉泰成 Tae-Sung OH

森千香子 Chikako MORI

◆問い合わせはこちら↓

identitytrouble2013@gmail.com

◆申し込みフォームはこちら↓

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/482e9de4227706>

◆詳細は国際社会学プログラムの HP ↓

http://www.soc.hit-u.ac.jp/~trans_soci/index.html

[主催] 一橋大学大学院社会学研究科・国際社会学プログラム

[協力] フランス国立東洋言語文化研究所(INALCO)「現代日本の住民——推移と展望」研究会 (Populations japonaises: Evolutions et perspectives contemporaines - Inalco)

アイデンティティ・ トラブル

「人種／エスニシティの混淆」と
日本社会

【国際社会学ワークショップ】



一橋大学 国際社会学ワークショップ アイデンティティ・トラブル——〈人種／エスニシティの混淆〉と日本社会

日時：2013年2月3日（日）
プレ・ワークショップ 午前10時30分～12時30分
ワークショップ 午後1時30分～5時30分
会場：一橋大学・東キャンパス・第3研究館（3階）研究会議室

日本における国際結婚件数は、1980年代半ば以降、大幅に増加し、今日ではおよそ20件に1件が国際結婚といわれる。また、生まれてくる子ども30人に1人が国際結婚の親をもち、その数は1990年代半ば以降、毎年2～3万人程度の規模で増えてきている。これらの子どもたちは、もはや敗戦後の本土に特徴的で、沖縄では今日なお大きな比重を占める「アメラジアン」だけでなく、日比、日中、日韓などのカップルのもとに生まれ、背景がきわめて多様化している。このほか、外国籍同士の国際結婚のもとに生まれる子どもの存在や、婚外子のケースにも留意しておく必要がある。

「ハーフ」や「ダブル」など、さまざまに名ざされる、これらの子どもたちにとって、日本社会に生きるということは、どのような経験であるのか。同時に念頭に置くべきは、敗戦後67年が経過したいま、かつて「混血児」、あるいは「ハーフ」と呼ばれた人びとがすでに老齢期に入りつつあるという現実である。かれ／彼女らにとって、日本社会を生き抜くということは、どのような経験であったのか。翻ってまた、日本社会にとって、かれ／彼女らはどのような位置を占めているのか／占めてきたのか／そして、占めうるのか。

このワークショップでは、〈人種／エスニシティ〉の既成カテゴリーを揺さぶり、攪乱する、〈人種〉／エスニシティの混淆という問題を、J・バトラーに倣って、「アイデンティティ・トラブル」と呼ぶこととしたい。それは、当事者にとっての「トラブル」であると同時に、日本社会にとっての「アイデンティティ・トラブル」でもある。

「単一民族神話」のもと、しばしば不可視化されてきた日本社会の〈人種／エスニシティ〉の境界編成、その国家との関係、ジェンダーや階層とのインターセクショナルリティ、グローバリゼーションの作用などについて考え、また〈エスニシティの社会学〉の有効性についても批判的に検討する場として、本ワークショップを開催したい。

●プログラム

10:30-12:30 プレ・ワークショップ 映画「キクとイサム」（今井正監督、1959年、117分）
（12:30-13:20 休憩）

13:30 ワークショップ開会のことば 伊藤るり（一橋大学）

* 司会：呉泰成（一橋大学大学院博士課程）

13:40 報告① 野入直美（琉球大学）

「映像表象における沖縄の“アメラジアン”」

14:10 報告② ジョハンナ・ズルエタ（アテネオ・デ・マニラ大学、日本学術振興会外国人特別研究員）

「沖縄のインヴィジブル・マイノリティ——フィリピン・ウチナンチュ二世の事例」

（14:40-15:00 休憩）

15:00 報告③ 田口ローレンス吉孝（一橋大学大学院修士課程）

「向老期をむかえる『ハーフ』のライフストーリー——エリザベス・サンダース・ホームの事例から」

15:30 報告④ フレデリック・ルスタン（一橋大学外国人客員研究員）

「日本社会における人種化と可視性——日本人とフィリピン人夫婦の子供の経験」

16:00 報告⑤ 李洪章（日本学術振興会特別研究員、上智大学客員研究員）

「『民族』概念の再構築——在日朝鮮人＝日本人間「ダブル」によるカテゴリー化拒否の語りを通して」

（16:30-16:45 休憩）

16:45-17:30 コメント&ディスカッション

* 司会：森千香子（一橋大学）

● 伊藤るり

● 小ヶ谷千穂（横浜国立大学）

◆お問い合わせ

identitytrouble2013@gmail.com

◆参加お申込は下記 URL または QR コードから

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/482e9de4227706>



* 主催：一橋大学大学院社会学研究科国際社会学プログラム http://www.soc.hit-u.ac.jp/~trans_soci/index.html

* 協力：フランス国立東洋言語文化研究所 (INALCO)「現代日本の住民——推移と展望」研究会 Populations japonaises: Evolutions et perspectives contemporaines - Inalco